

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒101-8441
 住 所 東京都千代田区神田錦町1-25
 氏 名 日清製粉㈱取締役社長 山田 貴夫
 代理人 取締役鶴見工場長 高橋 誠一郎 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項（同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。）の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	日清製粉株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区大川町3-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者（任意提出事業者）		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	09	食料品製造業
主たる事業 の内容	小麦粉製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	13,932	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

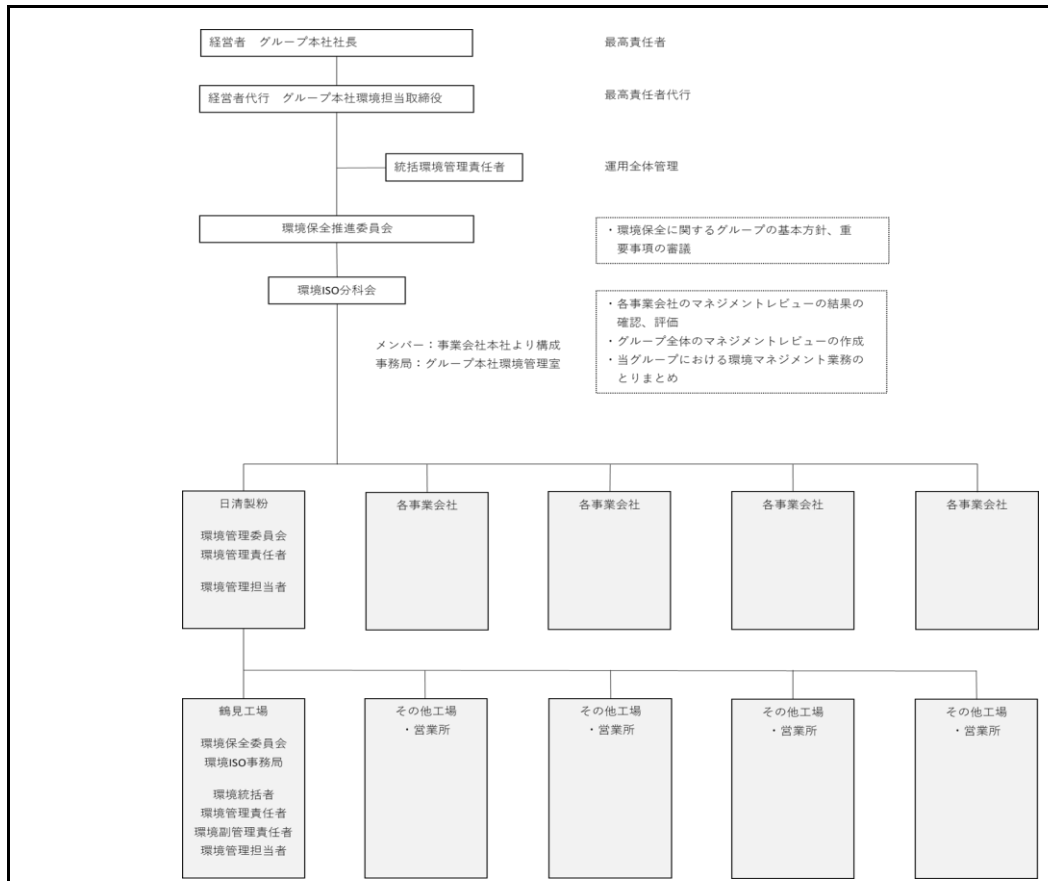
1. 事業者全体基本方針
 日清製粉グループとして下記の環境基本方針により、積極的な地球温暖化対策を進めている。
 地球環境保全は、人類の生存と発展のための社会全体の課題であり、その社会の一員として事業を含む企業にとって、最重要の経営課題です。日清製粉グループは、「信を万事の本と為す」と「時代への適合」を社是とし、「健康で豊かな生活づくりに貢献する」ことを企業理念として、当社が地球社会の一員であることの認識を持ち、地球規模での環境保全を図りながら自由で活力ある企業活動を目指します。

2. 鶴見工場の基本方針
 (1) 国や地方自治体が定める環境法令・規則・その他要求事項を順守し、環境保全に努める。
 (2) 環境負荷の低減として、事業活動において、省資源、省エネルギー、リサイクルを通じて汚染の防止を図る。
 (3) 環境管理体制の整備として、環境目的・目標を設定し、定期的な見直しをおこないながら、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
 (4) 環境方針の公開を通じて、全員参加の取組みによる一人ひとりの意識・モラルの向上を図り、環境保全活動の推進に努める。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

①日清製粉本社が策定した環境目的・目標に基づき、鶴見工場としての省エネおよび排出量削減の目標設定を行い、年度計画を策定する。
 ②鶴見工場としての目標に基づき、各部署における省エネおよび排出量削減の目標設定を行い、具体的な実行計画を策定する。
 ③毎月開催する「環境・CO2削減リーダー会」にて、工場全体のエネルギー使用量および排出量の実績管理、各部署の実施項目の進捗管理を行い、必要に応じて計画の見直し等を行う。
 ④半期ごとに開催する環境保全委員会にて、省エネおよび排出量削減効果の検証、評価を行う。またその評価により、実施項目の継続可否、修正等の判断を行う。
 ⑤④の評価結果を日清製粉本社に報告する。本社は各工場・営業所等の評価結果をもとに、事業会社としての削減対策実施状況の検証、評価を行う。またその評価により、実施項目の継続可否、修正等の判断を行う。
 以上の基本方針により、PDCAサイクルを実行・管理する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2021				年度
目標	年度	2024				年度
基準	排出量	(実)	27,064	(実)		
		(調)	27,444 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実)	26,252	(実)		
		(調)	26,621 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削減量		(実)	812 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実)	812 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実)	3.0 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		挽砕数量			
原単位の単位		t-CO ₂ /トン			
基準年度の値		0.04315			
目標年度の値		0.04186			
削減率		3.0 %			

ウ 目標設定に関する説明

排出量、原単位を年平均1%削減をすることを前提に目標を設定した。高効率空調機への更新や、高圧トランスの油式⇒乾式への更新、蛍光灯のLED化など積極的に設備投資を行い、省エネ活動を活発化させていきたい。また、工場全体の省エネ意識を高める為、各職場の目標原単位を設定し、毎月1回の環境CO₂リーダー会で進捗を確認し、改善活動を進めていきたい。

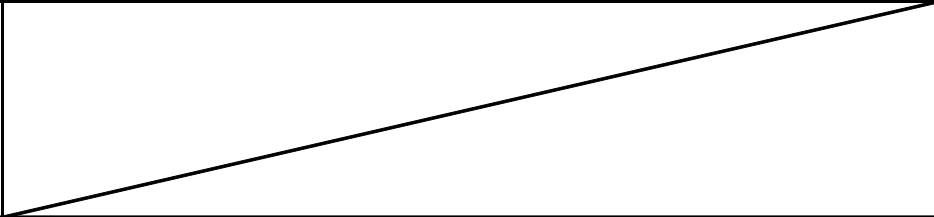
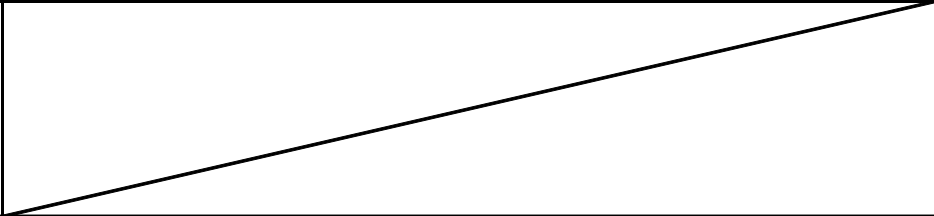
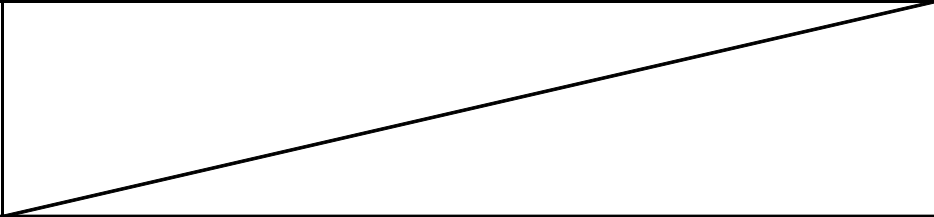
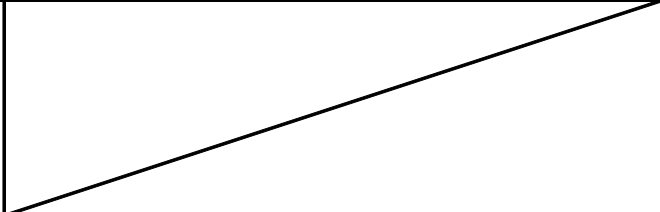
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

日清製粉グループとして、CO₂排出量を2030年度に2013年度比で50%削減することを目標としている。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容(別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>①生産設備のエネルギー管理 ・製造工程における可変ダンパの見直しによるターボファン回転数の適正化を図る。 ・ターボファンの集約化 ・コンプレッサー排気ファン個別ダンパー設置やエア流量の見える化。 ・各職場におけるエア配管の継続的なエア漏れの洗出しとその補修の実施。 ・チラーや高圧トランス等の高効率機器への順次更新。 ・ニューマエコ導入 ②照明・空調設備の運用 ・工場内の蛍光灯や水銀灯のLED化。 ・空調設備を高効率機器へ順次更新。</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<p>①小型風力発電機設備設置 ②太陽光発電設備の導入 ③生産設備のエネルギー管理の推進 (小袋及びペレット系統ターボファン風量適正化・包装タンク上ファン自動風量制御導入・微陽圧空調チラーPID制御見直し・コンプレッサー排気ファン自動風量制御導入・低圧コンデンサ導入・受電盤更新・フロー高効率運転システムの導入・コンプレッサー台数制御等)</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	2013年度に太陽光発電設備を設置した以来、特に設置の方向で検討を進めていなかった。2030年度(2013年度比CO2排出量50%削減)に向けて、限りある敷地内スペースではあるが設置検討を進めていきたい。
風力	○	2008年度に小型風力発電設備を設置したが、実績を見ると出力が低く、設備投資に見合わないため、増設は考えていない。
バイオマス		
未利用エネルギー		
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	構内倉庫屋上に600kWの発電パネルを設置	2013年度
風力	厚生棟屋上に小型風力発電設備2台を設置(自社消費)	2008年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	△
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入を継続する。 ・運送委託会社に対するエコドライブの実施の要請 ・社員に対する環境研修会の開催 ・2021年度の産業廃棄物排出量を2018年度比で3%削減する(619t→600t)
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	27,064	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

13,932	KL
--------	----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
日清製粉(株) 鶴見工場	川崎市川崎区大川町3-1	27,064 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂